



# 社会科学研究部報

令和7年6月18日  
浜松市教育研究会 社会科学研究部

## 令和7年度 社会科学研究部主任社会

4月14日（月）に天竜壬生ホールにて、今年度の研修テーマの趣旨や研修の計画について説明しました。また、浜松市教育センター指導主事より社会科教育について講話をいただきました。

### 1 顧問校長あいさつ

令和7年度より第4次浜松市教育総合計画が始まり、その基本理念は「描く夢や未来の実現」と定められている。子どもたちが、夢や未来を描き、その実現に向けて自ら行動していくことでウェルビーイングを向上させていきたいという願いが込められている。社会科学研究部の研修を通して、現代の社会科教育に求められているものを把握し、研修から得た学びが子供たちの学びにつながるようにしていきたい。



### 2 令和7年度研修テーマの趣旨説明

今年度の研修主題を「主体的に社会的事象を追及し、未来を問い続ける児童を育てる社会科学習」とした。目指す児童の姿である意欲的に社会的事象を追及する児童とは、問いを見出して予想を立て様々な方法で調べたり、方法や結果を吟味したりする姿が挙げられる。この姿を実現するには、児童の主体性を大切にし、対話を重要視することが必要である。例えば、高学年では社会的事象について解決策を考える際、自分にできることを考え、友達や教師と話し合い、考えを広げたり、深めたりすることが重要であると考え。研修主題を達成するために、社会科学研究部では4つの専門部が設置されている。専門部での活動を通して、社会科教師として、力量が高まったと思えるような一年にしたい。



### 3 講話「主体的に社会的事象を追及するための、教師の指導性の発揮」

浜松市教育センター指導主事

教師が発揮すべき、指導性については、以下の4つのようなものが考えられる。

1つ目は「見通しをもてる工夫」である。子どもと「ゴールイメージ」を共有したり、「プロセスイメージ」を確認したりすることが学習の調整につながる。

2つ目は「学習を調整できる機会の創出」である。学習の途中や終末で立ち止まり、問題解決の視点や方法を見つめ直す機会を設定することで、次の見通しをもつことにつながる。

3つ目は「多様な学びを支える環境づくり」である。学習の目的や子どもの興味・関心に応じて、活動を選べるよう環境を整える、多様な学びの機会を提供することで、子どもの学びの幅が広がり、自分に合った方法を考えることにつながる。

4つ目は「伴走者としての支援」である。教師が問い返したり、一緒に悩んだりして、子どもの視点に立って学びに寄り添うことで、子どもが自らの学びを省察し、その学びの価値に気づき、自力で課題解決していくことにつながる。

子どもたちが課題解決に向け、自ら考えて選択したり決定したりして学びを進めるために、教師がもつ専門性を生かしながら授業改善を進め、各教科等の中で資質・能力の確実な育成を目指すとともに、生涯にわたって学び続ける力の育成につなげることが重要である。

